

○質疑（三好委員） それでは、スクールサポーター活用事業についてお伺いさせていただきます。昨日、教育委員会の審査の中でも内田副委員長のほうから質問があったところですが、きょうは実際に派遣される側の立場から、いろいろとお話が聞けたらいいと思っていますので、よろしく願いいたします。

先ほど説明がありましたとおり、スクールサポーターの学校派遣については、平成24年度の事業では県全体で6名の嘱託員ということで、十分要請にこたえ切れていない状況もあったということを踏まえて、今年度は16名に増員され、学校支援プロジェクトチームと連携することで成果も着実に上がっているものと認識していますけれども、まず平成24年度の数値目標の達成状況と今年度これまでの進捗状況について教えていただければと思います。

○答弁（生活安全部長） まず、平成24年度の数値目標の達成状況でございますが、本事業の成果目標は、スクールサポーター派遣校における対教師暴力件数を、派遣指導終了後にスクールサポーター派遣時と比較して25%減少させるというものでございます。

少し詳しく説明いたしますと、平成24年度はスクールサポーターを10校に派遣し、同年度中に4校について派遣指導を終了いたしました。その派遣指導を終えた4校については、派遣期間中である平成23年度の対教師暴力は5件発生してございましたが、派遣指導終了後の平成24年度の1年間では、対教師暴力は発生いたしませんでした。したがって、成果目標である減少率25%に対して100%となり、成果目標を達成いたしました。

これは、スクールサポーターの派遣により学校の生徒指導体制が確立された効果が派遣指導終了後も継続されたものと判断いたしております。しかしながら、成果目標は達成できたとはいえ、その他の学校を見ると、学校側の生徒指導対策が確立できていなかったり、スクールサポーターの人的不足ですべての派遣校に2人体制で派遣できていなかったり、派遣頻度も週1回程度にとどまるなど、学校が希望する派遣体制や派遣頻度にこたえ切れなかったなどの課題も残りました。

そこで、本年度ですが、スクールサポーターを6人から16人に大幅に増員し、問題行動が頻繁し校内における暴力行為が発生する危険性の高い学校を特定し、県教育委員会の学校支援プロジェクトチームと連携して体制の強化を図りながら、安心して学べる教育環境を早期に確立するための集中対策を行っております。

今年度の進捗状況についてですが、本事業の成果指数を県教育委員会の把握する暴力行為の減少としております。なお暴力行為とは、対教師暴力、2つ目が生徒間暴力、3つ目が対人暴力で、これは先生と生徒以外の者に対する暴力であります。それから4つ目が器物損壊で、この4つの形態の総称になります。

本年9月末現在でスクールサポーターを派遣しております重点対策指定校13校における暴力行為の発生件数は40件で、昨年同期と比べ97件、約7割減少しており、一定の成果が出ているところであります。

また、重点対策指定校以外で派遣要請のありました 4 つの中学校にもスクールサポーターを緊急的に派遣し、問題の早期鎮静化を図るなど弾力的な運用も行っております。

○質疑（三好委員） とりあえず昨年度の設定目標はクリアしたということで、ありがとうございます。

ただ、今お話を聞きますと、9 月末で暴力件数が 40 件で、昨年比で 97 件減少ということで、感覚的には、やはりまだまだあるのだと思っております。

そのような中で、スクールサポーターの皆さんに効率的に仕事をしていただくためには、教育委員会は当然でありますけれども、やはり派遣先の学校の先生や生徒の連携協力というのは不可欠であろうと思っておりますが、実際、学校の先生や生徒たちはどのような反応だったのか、またどのような声が上がっているのか、わかる範囲で教えていただけたらと思っております。

○答弁（生活安全部長） 本年度はすべての派遣校に対し、県警幹部による 2 回の訪問を通じて学校現場の生の声を聞き、派遣効果を検証いたしております。

その声の一部を申し上げますと、「スクールサポーターの派遣により学校全体が落ちつきを取り戻し、生徒や保護者への対応に追われている緊張状態から教職員が解放され、生徒の前でも笑顔で対応できるようになり、本来の授業や生徒指導ができるようになった」、「スクールサポーターから事案に応じた法的な助言を得られるので、教職員の指導スキルが上昇している。特に若手教諭の人材育成にもつながっており感謝している」、「落ちついた学習環境が整ったことで、生徒の学力が昨年度に比べ V 字回復した」など、スクールサポーターの派遣効果を肯定する声が大きく上がっております。

○質疑（三好委員） 私が住んでおりますのは、福山市の松永地域というところであります、大変恥ずかしい話でありますけれども、この地元の松永小学校、松永中学校、松永高校がそれぞれ対象になっておりまして、御厄介をおかけしているところであります。日ごろ、校長先生や先生方、また保護者の方々から、いろいろな話を聞かせていただきますけれども、その中で、小学校はちょっとよくなったみたいですが、小学校 6 年生にいろいろと問題を起こす子がいて、その子が中学校に上がったなら、いつも 3 クラスあったのに、ことしはそういう状況なので、みんな中学校へ行くのを嫌がって 2 クラスになってしまっているというような話がありました。校長先生も必死になって取り組んでおられ、少しずつ成果は見えてきておりますが、まだまだこれから頑張っていけないといけないということも言われておりました。

また、暴力事件等があったときに、特に若い先生方は対処の仕方がなかなかわからないという中で、しっかりと後ろ盾になっていただき大変心強いという御意見があったり、また警察 OB の方でもありますので、それぞれの方がしっかりと情報交換されるため、各地域でどのような取り組みがされているのか、どういう成果があったのかということも、よく連携され

て、それぞれの学校にフィードバックしてもらっているので大変ありがたいという話もされておりました。

また、私もなるほどと思ったのですが、こういう問題が起きるのは学校の中だけではなくて、登下校中も非常に多いということです。実際に松永高校などでは、寄り添い登校や下校される中で、通学路の途中にある民家の方々からは、落書きがなくなったとか、以前はにらみつけられていたのが今ではあいさつができるようになったとか、いたずらがなくなったということで、地域の方から大変喜ばれ、それなりに評価いただいております、大変いいことと思っております。

こうして少しずつ成果も上がってきておまして、恐らく数字的にもよくなってくるのだろうと思っていますけれども、やはりそんなに簡単に原因がなくなるとも思えないわけでありまして、実際、現場から見ますと一触即発というような状況は変わらずあるのだろうと思いますので、できるだけこの事業は続けていっていただきたいというのが私の思いであります。

例えば、もし続けていっていただけるのであれば、やはり人間の信頼関係で成り立っているようなところがありますので、派遣されるサポーターもぜひとも継続して同じ人にしていただきたいというような話を、実際に現場から聞いております。そもそも予算構成ということ考えたとき、もともと学校の立て直しということで教育委員会の管轄であり、ずっと警察のほうで予算をつけていくことは、いずれ無理が出てくると思っております、その辺のすみ分けなり連携をこれから御検討いただかないといけないと思っています。そういった点を含めまして、最後の質問になりますけれども、今後事業を推進していただけるのであれば、今の課題や問題点がどのようなところにあるのか、お聞かせいただけたらと思います。

○答弁（生活安全部長） 本年度派遣しております重点対策指定校 13 校の中には、いまだ生徒指導対策が確立されていなかったり、大きな課題を抱える生徒が多数在籍し、立ち直りに向けた指導に時間を要するなど、継続的な支援が必要な学校が数校存在しております。

また、県教育委員会が公表しています暴力行為の発生件数は、平成 20 年度以降 1, 000 件以上で横ばい状態が続いており、本年度も派遣校以外の中学校や小学校で増加傾向にあります。重点的な対策が必要となる学校は、児童生徒の非行の進化や新入生の状況などにより毎年変化するものであり、今後もスクールサポーターの支援を必要とする学校は発現してくるものと考えております。

これらの点や委員の御指摘も踏まえ、次年度以降も継続して本事業を推進できるスクールサポーターの体制と有能な人材を確保できるよう、県教育委員会などとも協議しながら、警察としても努力してまいりたいと考えております。

○要望（三好委員） 御検討をよろしくお願いいたします。

私自身、9 月定例会でも非行少年を立ち直らせる支援について質問させていただきました

けれども、特に私の地元福山市は、県下でも刑法犯に占める少年の割合が高く、再犯率も年々増加しておりまして、集中的な取り組みをお願いしていただかなければならない地域だと思っております。

非行少年の半数以上が中学生であるということも伺っております。そういった意味でも、スクールサポーターによる中学校対策などは、まさに少年非行防止の中核を担う取り組みであると思っておりますので、今後ともしっかりと取り組んでいただきますようお願いいたしまして、質問を終わります。